

発行元：新島村農業委員会事務局（新島村産業観光課内） ☎ (5) 0284（直通）

令和4年度農業委員会だより3月号

趣味の農業のススめ むのIII

世間から見た農業のイメージは「つらい」「難しい」「割に合わない」と言った感じではないでしょうか？対して、農業を好きでやっている人は「やりがいがある」「工夫の余地がある」「そもそも儲けようと思っていない」「こんな感じだと思いません」。

今年成功したと思えば来年は失敗する：明確な原因もわからないので、推測で対処することしか出来ず、成功と失敗が無限にループするのが農作業です。

そんな大変な作業のどこに楽しみが存在するのか？我が家の農場主は畑に行つて土をいじると癒されるらしく、体調があまりよくない日でも畑仕事をするのがスッキリ良くなるようです。

▶ パパイヤの実



どうしてなのか調べてみると：

土の中には多くのバクテリアが存在していて、土に触れたり土を掘り返したりしたときにバクテリアを吸い込むようです。

その中のある種のバクテリアは、脳内神経伝達物質である「セロトニン」を増やす働きがあるそう、やる気を起こさせると同時に不安な気持ちを抑制する働きがある「セロトニン」を吸い込むことが原因とのこと。

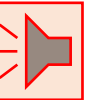
なるほど！要するにセロトニンによって「キマっている」状態なのかもしれません。

もう一つの理由として考えられるのは、農業は命を育む行為なので、特に女性は母性をくすぐられているということも考えられます。

そういうことですの、皆さんも「土いじり」でセロトニンハイを体験してみたいかがでしょうか？特に女性にはお勧めです。

ちなみに私は、未だそこまでの境地には達しておりません。芋虫触れないので（泣）。

農業委員 吉見 一之



気を付けよう！農業用重機の利用

現代農業には農業機械が欠かせません。

小さな耕運機でも1台あれば、それは作業時間や労働力の大幅な軽減になります。

機械は力強く、同じことを飽きずにつとやってくれます。ただ、使い方を誤ると大きな事故にもつながります。

調べてみると農業に関する事故は多く、国内ではここ数年は毎年300件ほどの死亡事故が発生しているようです。

事故の原因は、

- ① この機械等によるハード的なもの
 - ② 作業者の不安全行動に起因するソフト的なもの
 - ③ 環境整備や経営意識に起因するシステム的なもの
- が考えられ、なかには死亡事故もあります。死亡事故に至る事例には、
- 畜産従事中に動物に挟まれる・踏まれる・蹴られる
 - トラクターで水路や畦道に落下・転倒、下敷きになる
 - 高所作業中の落下等
- が多いとのこと。



▲農業用重機（トラクター）

これらの重大事故は新島村には縁遠いと思われませんが、業態に関わらずほとんどの方が使うであろう刈払機等で受傷してしまつことも大いにあります。

農地での怪我は土に触れているため、医療機関にかかると破傷風の心配など思つた以上の大事になることがあり、注意が必要です。

季節も春に向かい、外で作業する機会が増えてきます。

便利の向こうにある危険も意識して、作業しやすい環境をつくつたうえで事故のないように慎重に、そしてなにより楽しく農業に関わることが大切だと考えています。

最適化推進委員 宮原 淳

新島村のつきょうへ行くついで

新島村農協はこの数年サービスの向上に大変努力されている。

農協の公式ラインでは、ほぼ毎日、地元野菜や切花の入荷状況、焼き芋の焼きたて情報まで写真付きでわかりやすくお知らせしてくれて、非常に便利である。

焼き芋焼きたて通知に何度足を運んだことだろう。

また、店舗内では明日葉のジュースやシェイク、明日葉、あめりか芋、苺など様々な農産物を使用したジェラート等を販売しており、テイクアウトも可能。

おしゃれでかわいいカウンターは島民だけでなく、観光客にも人気のスポットであることは間違いない。



▲農協のカウンター

▲農協の公式ライン



店舗奥の倉庫には、畑仕事道具やロー用品も充実しホームセンターのようで見えてもワクワクする。

木曜日はお惣菜の日になっており、式根島からも人気のパンや揚げ物などのお惣菜が届き、大盛況でお昼前には売り切れてしまう。電話での予約もできるので、なくなる前に確保しておくことをお勧めする。

精米や苗木の注文なども嬉しいサービスで、農協のサービスの幅はとても広い。

令和3年10月1日からは土日、祝日も8時半〜17時まで毎日営業するようになり、地域のニーズにマッチした様々なサービスを提供してくれる農協の存在は必要不可欠である。地域の団体が元気であれば、行政や関係機関と協働し地域力を発展させることに繋がっていく。

ぜひ、一度新島村農協に足を運んでみていただきたい。

農業委員

小久保利佳



シカによる被害対策

私は、農業委員会の農地利用最適化推進委員としてだけでなく、有雪鳥獣防除員の職務を兼務しています。

現在、宮塚山の駆除を担当しており、宮塚山道側の5分ほど入ったところに、令和3年秋から罠をかけ始めました。

2か所で4基の罠からスタートし、年末と年始に続けて計3頭かかったので、場所を増やし現在は9か所で36基で稼働、約1年で10頭かかりました。

見かけることが少なくなったシカですが、見える場所に来ないだけでまだいます。依然と比べ、目に見える作物被害は減りましたが、山における食害や排尿による森林の枯死は続いており、それが地滑り等の災害を引き起こす原因となり得るので、私たちにも大きな脅威となります。

シカに関する情報がありましたら、ご連絡お願いします。

最適化推進委員 前田 亘

下記の表の説明

全体：全地域の合計捕獲頭数

宮塚山：宮塚山道側の罠の捕獲頭数

(道から5分程の区域も含む)

山奥：道から離れた山の西側の罠の捕獲頭数

▲宮塚山担当に着任以降のシカの捕獲頭数

年	場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020	全体	20	25	23	23	13	12	25	20	14	7	3	7	192
	宮塚山	6	8	8	3	4	2	7	1	4	1	0	3	47
	山奥	1	2	3	3	1	2	3	3	0	0	0	0	18
2021	全体	24	30	17	8	24	30	21	21	19	12	12	14	232
	宮塚山	8	15	7	0	7	7	3	6	3	4	2	4	66
	山奥	2	1	1	0	1	4	1	0	1	0	0	2	13
2022	全体	18	19	21	18	19	12	21	20	9	9			166
	宮塚山	2	9	5	4	8	1	4	2	3	1			39
	山奥	1	2	2	3	3	1	2	3	0	1			18